



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント	
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足					
1/31 (月)	+ 500	+ 6,100	▲ 1,500		新型コロナ対応オペ CP等買入 補完オペ	▲ 132,200 ▲ 4,000 + 300	新型コロナ対応オペ + 123,500 CP等買入 + 5,000	日: 日銀金融政策決定会合議事録等 (2011年7月-12月開催分) 鉱工業生産 (12月) 欧: ユーロ圏GDP (4Q)
2/1 (火)	+ 1,000	▲ 22,000	▲ 21,000	国債発行・償還 (2年)				日: 有効求人倍率 (12月) 完全失業率 (12月)
2/2 (水)	+ 1,000	▲ 82,000	▲ 81,000	税・保険揚げ 国債発行 (10年)	共通担保資金供給オペ	▲ 2,900		日: マネタリーベース (1月) 欧: ユーロ圏CPI (1月)
2/3 (木)	トン	+ 1,000	+ 1,000					欧: ECB政策金利発表、総裁記者会見 米: 新規失業保険申請件数 (29日終了週)
2/4 (金)	トン	▲ 8,000	▲ 8,000	国債発行 (30年)				米: 雇用統計 (1月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初535兆2,100億円から始まった。25日は各種財政資金の支払いがあり537兆6,500億まで増加、その後27日は国債買入オペと国庫短期証券買入オペにより539兆1,600億円まで増加した。週末の28日は大きな動きもなく539兆7,400億円 (速報) で越週した。
無担保コールON物加重平均金利は週初、前営業日比△0.001%の△0.021%から始まった。その後地合いに大きな変化はなく、週を通して同水準で推移した。
ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.015%~△0.005%の水準で出合いが見られた。
来週の主な予定は、国内で31日に鉱工業生産 (12月) の公表や2月1日には有効求人倍率 (12月)、完全失業率 (12月) の公表などがあり、海外では2月3日にECB政策金利発表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.085 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

<レポ>

今週の足許GC取引は、△0.09%~△0.08%の狭いレンジで推移。週を通してレート水準に変化は見られなかった。SC取引では2年428~432回債、5年137~150回債、10年332~365回債、20年164~179回債、30年69~73回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.080 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆7,000億円で、週間償還額 (約1兆7,000億円) と横ばいとなった。発行市場は、月末の大量償還 (約1兆1,400億円) に対して、新規発行は約9,200億円に止まり償還超となったが、月末や月初スタートで機械や石油製品等の大型案件が見られたことから、マーケットは活況となった。発行残高は先週末の26兆246億円から、27日時点で26兆8,555億円に増加した。発行レートは、引き続き、希少銘柄等においては深いマイナスレートでの出合いも見られたが、大型発行案件については浅いマイナスレートでの出合いとなった。24日に、CP等買入オペが予定通り5,000億円でオファーされた。結果は、按分レート△0.013%・平均落札レート△0.011%と前回 (按分レート△0.012%・平均落札レート△0.010%) 比で低下した。
来週の週間償還額は、約2,700億円程度となっている。発行市場は、5・10日発行が見込まれるため、取引は活況が見込まれる。発行レートは、コロナオペ担保目的等の対象銘柄や希少銘柄等では、引き続き深いマイナスレートでの出合いを予想する。

<TDB>

1月24日の6Y1054回債(2022年7月25日償還)の入札は、最高落札利回り△0.0866% (前回債△0.0987%)、平均落札利回り△0.0907% (前回債△0.1068%) となり、1月28日の3M1055回債(2022年5月9日償還)の入札は、最高落札利回り△0.0893% (前回債△0.0882%)、平均落札利回り△0.0923% (前回債△0.0918%) となった。来週2月4日に3Mの入札がある。